

秋田建築労働組合 第59回 定期大会



「組織拡大・強化の力で建設技能者の賃金・労働条件を改善し、魅力ある建設産業にしよう」をメインスローガンに掲げ、2月16日、秋田市の「秋田ビューホテル」で来賓に全建総連・勝野圭司書記長など39人を迎え、組合員308人（委任状3,894通）が出席のもと、秋田建築労働組合 第59回定期大会を開催しました。



司会をする鈴木社保対部長



挨拶をする大会議長の両氏



書記の任命を受けた事務局職員

鈴木辰彦 社保共済福祉部長の司会で始まりました。初めに昨年、運動なかばにして亡くなられた組合員の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

大会議長に中野宏（秋田東支部）、小沢悟（能代支部）両氏と大会諸役員を選出、拍手で承認。書記の任命に事務局の後藤貴 職員と秩父亜希子 職員を任命しました。

主催者を代表して佐々木澄夫組合長が「経済状況は緩やかな持ち直しが見られるが、物価上昇に賃金が追いついていない。27年度賃金調査で一日平均13,700円、標準賃金21,000円の7割にも満たない。年収換算で320万弱、前年比8万円弱減となる。設計労務単価が25年から引き上げられているがその実効性は乏しいといえる。更に28年度設計労務単価が2月1日から秋田県の大工職で24,400円になった。引き続き社会保険未加入対策と法定福利費を含めた標準見積書の活用を推し進めなければならない。設計労務単価と実質賃金との差がある以上、その差を縮める工夫ともらうための勇気が必要だ」

「処遇改善への早道は公契約条例を制定し労働者の賃金下限額を条例に盛り込むことが重要となる。県をはじめ各自治体に対して制度政策要求の要請行動を実施していることによりリフォーム事業補助の継続、地元企業の優先発注・雇用など約束されている。また全建総連は、消費者に対する信頼度を高め仕事確保を確実にするため、『全建総連リフォーム協会（全リ協）』を設立し、早期に説明会を開催し会員を募る」

「最後に健康診断の重要性を訴え受診率目標70%達成に向けこれまで以上の協力をお願いする。組合運動の目的達成には組織力が第一条件となりことから、新規加入目標350人とし、増勢に向けて拡大運動を進める」と情勢を交えた挨拶がありました。





三役・大会諸役員席



大変お忙しい中、ご臨席いただいたご来賓の皆様
来賓挨拶
秋田市長 穂積 志 様



全建総連の勝野 圭司 書記長からは中央情勢を交えて国保組合予算、アスベスト訴訟、技能者育成、春の拡大運動について報告と挨拶がありました。



連合秋田 東海林 悟会長 様



秋田労働局 健康安全課長 斎藤 孝一 様



真剣に挨拶を聞く、大会参加者と執行役員のみなさん

中建国保組合 常務理事 岩館 高志 様



支部表彰 湯沢支部 高橋 秀幸支部長

全建総連 定期大会表彰

秋田東支部 千葉 忠誠 元副組合長 在職6年



大仙・美郷支部 高橋 正一 元副組合長 在職5年



謝辞を述べる千葉 忠誠 元副組合長



謝辞を述べる高橋 正一 元副組合長

午後からは議事に入り、経過報告、会計報告、監査報告を拍手で承認、続いて平成28年度運動方針案として、①公契約条例制定②公共工事設計労務単価の改善③住宅リフォーム助成事業④特定健診受診率向上⑤自治体交渉⑥組織強化と予算案が提案され大きな拍手を持って承認されました。



スローガン提案を読み上げる古屋 清太青年部長



質疑応答で答弁をする照井 昇書記長



伊藤 慎也選挙管理委員長より選挙報告

役員改選をおこない、新役員を代表して佐々木澄夫組合長が「今日、審議された議案について確実に実行するために役職員一丸となって推進していきます」と熱く決意を述べました。



整列した新役員と決意を述べる佐々木 澄夫組合長

本部役員退任表彰

本荘由利支部 石川 和實副組合長



無事大会を終えて笑顔を見せる両大会議長

参加者全員で「団結ガンバロウ」を三唱し、新体制のもとで新年度のスタートを切りました。



退任のあいさつをする石川 和實副組合長
「4年間、ありがとうございます」

